



四小だより

12月号

令和5年11月30日発行

新座市馬場3-6-1

048(478)3192

■よく考え学ぶ子 ■じょうぶでたくましい子 ■心の豊かな子

来年も日本ならではの正月を

校長 岡野 信幸

毎年この時季になると、「今年もあと1か月か。」と感慨深い気持ちになります。この1年どんなことにチャレンジしたか振り返ることで、この12月の過ごし方を考える良い機会かと思えます。先生も走る「師走」ですが、残り少ない令和5年の日々を大切に過ごしていきたいと思えます。

2学期は運動会、校外学習、授業参観、避難訓練等を順調に実施することができました。校外学習では、それに向けての体調管理、また早朝よりお弁当の準備等、ご協力をいただきありがとうございました。これから実施の2・5・6年生もよろしくお願ひします。

令和6年1月の登校は、9日から始まります。17日間の冬休みですが、クリスマスやお正月と楽しい行事が続きます。学校から別に配付される「冬休みの生活について」もご参考にいただき、お子さまに安全で規則正しい生活を送ることができますよう、ご家庭でも十分にご指導ください。

お正月とは

私自身、日本ならではの年中行事をととても大切にしています。昨年はお正月の「おせち料理」のいわれなどを書きましたが、今年は「お正月のしきたり」の中から少し書きたいと思えます。

そもそも、お正月とは何なのでしょう。多くの方がお正月を家族で過ごし、おせちを食べたり、お年玉のやりとりをしたりしています。お正月の元旦には「歳神様（としがみさま）」という新年の神様が、1年の幸福をもたらすために各家庭に降臨するとされています。子孫繁

栄や五穀豊穰に深く関わっていると言われていいます。その歳神様を迎え入れてお祝いし、たくさんの幸せを授けてもらうために、様々な正月行事や風習が生まれたとされています。

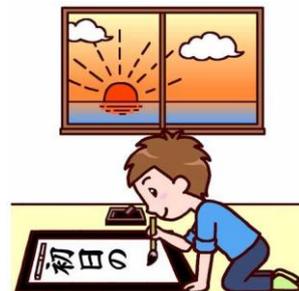


お正月のしきたりを子どもたちに

お正月は、元旦の朝に昇ってくる太陽を拝み1年の幸福を祈る「初日の出」から始まります。歳神様は初日の出とともに降臨するとされています。

初詣というしきたりもあります。初詣は、神社、お寺のどちらに詣でも良いとされていますが、氏神（地域の守り神）や菩提寺（先祖代々のお墓があるお寺）に詣でるのが基本といわれています。しかし本来の意味は、歳神様がいる方向「恵方」にあたる寺社に詣でるものとされているようです。

学校からも課題として出されている書きぞめは、本来新年の抱負や目標をしたためるものです。事始めにあたる1月2日に行うのが一般的です。もともとは、平安時代の宮中行事であった「吉書初め」が由来とされていて、元旦に汲んだ水ですった墨を使って、歳神様がいる方向（恵方）に向かって、祝賀や詩歌を書いています。



お正月のしきたりは、これだけではありません。「あけましておめでとうございます」という挨拶をはじめ、年越しそば、正月飾り、お年玉、七草粥、鏡開きなど、たくさんあります。

お正月は家族が集まり、挨拶や行事など、しきたりを子どもに教え、伝えていくよい機会であり、情緒を育てるのにもよい機会と捉えられます。日本に暮らしている私たちは、伝統や歴史を大切にする心を育てるために、こういったしきたりを子どもたちに伝えていかなければならないと思えます。

そのためには、私たち大人がしきたりというものを理解し、大切にする気持ちをもたなければならぬと思っています。

保護者・地域の皆様には、本年もお世話になりました。よいお年をお迎えください。